

オーストラリア・アボリジニのコミュニティにおける  
マーケットの食料供給— 1988年から1995年—  
五島 淑子（山口大）

【目的】オーストラリア・アボリジニは、オーストラリア国民に比較して、寿命が短い、栄養に関連する病気が多いなど、健康的に悪い状況に置かれていると言われる。かつては狩猟採集民であったアボリジニも、今日では購入食品が食事の重要な部分を占めている。辺地のコミュニティにおいて、スーパーマーケットがひとつしかない場合、マーケットの食料が住民の健康状態に影響を与えることが明らかにされている。このためマーケットの食料供給の変容を明らかにすることは、アボリジニがより健康に暮らすための一助となると考えられる。本研究の目的は、スーパーマーケットの食料品の注文伝票をもとに、食料供給の特徴とその変化を明らかにすることである。

【方法】マニングリダは、ノーザンテリトリのアーネムランドにあるコミュニティのひとつである。マニングリダにあるスーパーマーケットの1988年から1995年の8年間（野菜・果物類については1993年から1995年の3年間）の注文伝票の資料を対象とし、食料供給の特徴およびその変化を供給量の面から分析した。

【結果】マニングリダ・マーケットにおける食料の供給は、8年間のうちに品目が増え、食品の選択の幅が広がる傾向が認められたものの、野菜・果物類が非常に少ないこと、砂糖は1人あたりの供給量は減少傾向にあるもののまだかなり多いこと、インスタント食品が1991年以後に急激に増加していることなどを明らかにした。